

SHONAN VISION

Social Magazine

Vol.39

2020.11

あって良かった、
なくては困る会議所へ

Take Free



あって良かった、なくては困る会議所へ

藤沢商工会議所 会頭 増田隆之氏

インタビュー・文 / 片山清宏・片山久美



ここ数日の冷たい北風がやんでほっと一息、まさに小春日和といった陽気の土曜日の午後。商工会議所会頭室でインタビューは行われた。

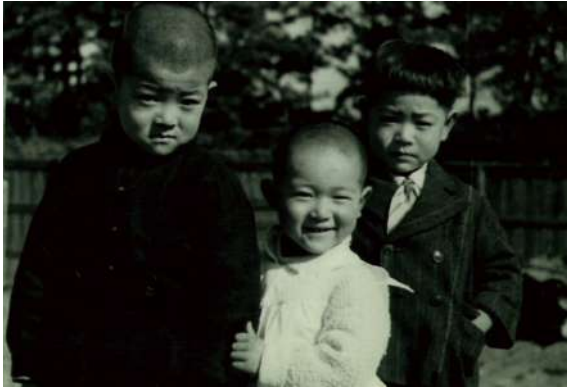
増田隆之。2016年から藤沢商工会議所会頭を務め、現在2期目である。

颯爽としたスーツの着こなしや相手を緊張させない気さくな笑顔と穏やかな語り口は、現役ホテルマン時代を彷彿とさせる。彼の人生に迫った。

板場が遊び場

1947年藤沢市生まれ。生まれも育ちも「藤沢駅前」である彼は、明治24年創業の旅館「角若松」の家に生まれ、六人兄弟の五男として育った。

「先々代である曾祖父が、埼玉県の青木村（現在の埼玉県川口市）から藤沢に出てきて藤沢駅前に30坪ほどの小さな料理屋を買ったところから始まったと聞いています。藤沢駅が開設されたのが国鉄の横浜と国府津が開通した明治20年7月。当時は白旗神社の方が栄えていて、今の藤沢駅周辺は砂浜や野



原が広がっていたそうです」

川口の鋳物師だった先代は、敷地を200坪ほどに広げ、料理店兼旅館業『角若松』として開業。その後、2代目に当たる増田の祖父の元に、当時、大街道の中心地である長後宿の旅館から祖母が嫁ぎ、祖父はとても才覚のある人で、大いに土地を買い足し、駅前に1300坪の広大な旅館を経営したという。

当時、百人以上の客を収容できる立派な大広間を備え、駅前という利便性の良さもあり、宴会や披露宴などが数多く催された。残念なことに、祖父は早逝し、18歳で3代目となった父の背中を見て育った増田の幼少期は、やはり、旅館が舞台だったという。

「東京から藤沢駅に終電が入ってくるでしょう。小さい頃は、電車を降りたお客さんをお迎えるために母が駅で待っていたのを覚えています。私の遊び場はやっぱり旅館。いつも板前さんのいる板場を駆けずり回っていましたね。当時は東映映画が盛んだったので、覆面をしてチャンバラごっこ。上に兄が4人もいたこともあり、自由奔放に育ちました」

華やかな湘南での青春時代

藤沢第一中学校を経て、神奈川県立鎌倉高校に進学。1964年、増田が17歳の頃、東京オリンピックが開催され、ヨット競技が校舎から見えた。「湘南」が一気に華やかさを増したこの時期、小さい頃から新しいことに敏感だった増田は、流行りのアイビールックに身を包み、髪にはポマードをつけて登校。車にも乗り、鎌倉や茅ヶ崎の友だちと遊びに行く。親にお金を無心しては好きなことに使うという青春時代は、高校卒業後、明治学院大学を2年で中退する時まで続いた。

「明け方まで遊んで家に帰ると、母が私の部屋でうたた寝をしているんですね。なかなか帰ってこない息子を心配して部屋で待っているうちに寝てしまったんでしょう。苦勞をかけたと思います。大学を中退した当時、長男が喫茶店を営んでいて、お茶の水のシャンソン喫茶「ジロー」の店主と仲が良かったんです。それを見て、『自分もフランスに行つて洋菓子の勉

強をしてみたい』と思ったのです。第2外国語がフランス語だったし、1日1ドルで世界を放浪する人生も悪くないなと軽い気持ちで両親に話しました」

話を聞いた父は、何も言わず、1通の紹介状を増田に手渡した。そして、一言、「10月になったら行きなさい」と。その紹介状は、その後の増田の人生を決める貴重な1通だったのである。

1通の紹介状で名古屋へ

紹介状は、藤田観光株式会社が運営するホテル「名古屋国際ホテル」の常務にあてたものだった。増田は、名古屋行き新幹線の片道切符と5,000円、そして父から渡された1通の紹介状だけを持って家を出たのである。

ホテル到着後、フロントで名前を名乗り、用件を告げるとまづ連れて行かれたのが地下2階にあるリネン室だった。

「はじめはフロントで接客について勉強するのかなあと思いつながら行ったら、いきなり初日から真っ赤なユニフォーム。ベルボーイとして働くことになりました。当時の新婚旅行は伊勢志摩が定番で、新幹線を名古屋で降りて1泊して向かう新郎新婦が多かったです。ちょうど1970年に開催された大阪万博を控えていたこともあり、朝から晩まで大忙しでした。だから、北は北海道から南は九州まで、同年代の人たちがホテルに働きに来ていました。仕事から帰れば寮暮らし、片道切符で実家には帰れないし、まさに逃げ場がない状態。でもその環境がかえって良かったんです」

20歳まで藤沢で生まれ育ち、何不自由なく好き放題やらせてもらっていた増田にとって、生まれ育った環境や場所が違う人たちとともに暮らし、働くことは大きな刺激であり、新しい発見の連続だったのである。

「もちろん、けんかや意見の衝突もありました。生意気だと言われて呼び出されたり(笑)。名古屋の人って、仲良くなるのは時間がかかるんですが、いったん仲良くなると本当に面倒見が良いんですね。同僚のお姉さんのお嫁入りを見せてもらったり、日帰りで行けるスキー場に連れて行ってもらったり。

当時お世話になった方たちとは、今でも付き合いがあります。ただ、ご飯だけは苦勞しましたね。ホテルの従業員食堂で食事をするのですが、名古屋の味噌汁はドロドロ。それが飲めなくて(笑)。きしめんも最初は苦手でしたが、だんだん好きになりました」



増田は、持ち前の人なつこい性格と人付き合いの良さで、多くの常連客や有名人とも仲良くなり、お客様からいただくチップで給料の倍稼ぐなど、めきめきと実力を発揮した。1年半でメインダイニングルームを任せられ、その後は企画部の宣伝担当として20代の若さで藤田観光初のビジネスホテル「ワシントンホテル」の開業準備に関わるようになった。

「メインダイニングルームで働いていたときは、フォアグラや高級ワインを味見させてもらえました。正直、休業中の身で味の違いはあまり分かりませんでした(笑)。ただ、ホテルに併設されているベーカリーに焼きたてのバターロールをこっそりともらい、それにホテルのバターをたづぶりつけて、フォアグラやワインと一緒に食べるとこれが本当にうまい。今でも思い出します。企画部では当時、クリスマスパーティーがとても盛況で、今でも活躍している女性歌手のディナーショーも多く担当しました」



藤沢へ帰り、地元へ恩返し

そんな、仕事が面白くなってきた27歳の頃、父が心臓を悪くし、急遽藤沢に帰ることになった。今まで散々好きにやらせてもらった親や地元へ恩返しをしたい。そんな気持ちを胸に、増田は、『角若松』の系列の中華料理店を切り盛りする新しい生活をスタートしたのである。

当時は高度成長期、バブルがはじける前の時代で景気も良く、藤沢駅北口の5つの商店街でも、多くのイベントやお祭りが催され、活気にあふれていた。40代となった増田は、それらのイベント等に参加しているうちに少しずつ知り合いが増え、地域で与えられる役割も大きくなっていった。

「イベントが終盤になると、片付けが終わる前に商店街連合会の仲間で酒盛りが始まるんです。最初の頃は一人で後片付けまでやればいいやと思っていたんですが、責任のある役を

やるようになってきたこともあり、『やるからには片付けまで終えてから気持ちよく飲もうよ』と言うようになりました。元々やり始めるとちゃんとやらないと気が済まない性分なんですね。そういったやりとりを見てくれていた人たちが、私を信頼してくれるようになって。私が街に溶け込むことができたのは、イベントのおかげなんです」

増田はイベントを通じ、自分より10以上も年上の先輩が街のために一店舗ずつ頭を下げて寄付集めをして回る姿を見て、衝撃を受けた。お金を集めてイベントをやることの大変さ、そしてイベントが成功した後の達成感、やりがいを知った。

「イベントは厳しい。けどやっぱり楽しいんです。初めてやることは何でも、最初は確執がありました。でも、今いろいろなことが話し合いで解決できているのは、当時からしっかり心のすれ違いを埋めてきたからこそ。迎合したりや嘘をついたり、見栄を張ったりせず、自分が一番大事だと思うことを正直に話す。本当のことを言えばいつかは必ず相手もわかってくれると思うんです」

藤沢商工会議所会頭に就任

2016年11月、藤沢商工会議所は臨時議員総会を開催し、当時商業部会長を務めていた増田を新会頭に選出。2期6年の任期を務めた田中清明前会頭(株式会社ミルススペース代表取締役)の退任に伴うこの人事では、増田が満場一致で新会頭に選ばれ、第24期会頭となった。

「他の副会頭から会頭が選出されると思っていたので、会頭選出の打診を受けたときは正直戸惑いました。自分で務まるのかどうかと悩んでいたところに背中を押してくれた方がいたんです」

それは、当時株式会社フジサワ名店ビル取締役会長の山岸弘氏。山岸氏からの電話で「会頭は受けざるを得ないと思う」と答えた増田に、山岸氏は「仕方なくするのではなく、自分で手を挙げないでどうするんだ!」と一喝。その言葉に、増田は、自ら立候補する決意を固めた。

あって良かった、なくては困る会議所へ

2019年に藤沢商工会議所会頭に再任された増田は現在2期目。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止と経済対策の両立という難しい局面の舵取りを任されている。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済対策として、藤沢商工会議所は、いち早く藤沢市への緊急提言を行うことで、3年間の全額利子補給・保証料全額補助の1000万の災害復旧

第十回 藤沢宿 遊行の盆

令和元年
7中記28日



資金の創設につなげた。また、飲食店にのみ低い金額が設定されている県の拡大防止協力金についても着目し、市単独の補償上乘せにも尽力。

さらに、藤沢市・藤沢市商工会連合会と連携して実行委員会を立ち上げ、緊急事態宣言解除後の5月22日から6月30日までの間、「ふじさわ応援 前売りチケット」事業をスタート。客が応援したい店で使用できる前売りチケットを“今”購入することで、苦境に立たされている店にエールを送り資金面で応援する取組みである。

「クラウドファンディングも良いのですが、できるだけお客様の『顔』が見える応援をしてもらいたかったんです。結果、チケット事業に約180数店のお店が手を上げてくれ、合計で2,000万円弱のチケットをお客様に購入していただきました。チケット購入者には、お店への応援メッセージをつけてもらうようお願いをしたのですが、遠方からわざわざメールでメッセージを送ってくれる方もいらっしゃいました。お金だけではない、お店の気持ちが折れてしまわないような、『心の支

援』ができたかなと思います」

増田の『心の支援』は、現在の藤沢商工会議所の窓口体制にも現れている。会議所では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急対策として、特別経営相談窓口を開設。10月末までに延べ1,900件以上の相談を受けた。通常を大きく上回る件数を前に、増田は、「とにかく親切に対応してほしい」と職員にお願いをした。

「まさに生きるか死ぬかの瀬戸際。皆さん必死で、中には1時間以上かかるお客様もいましたが、職員もとても親切に対応してくれました。その後、時間をかけて対応したお客様から、窓口への感謝の気持ちを込めて、マスクのプレゼントがあったんです。あの時はメンバーみんなで喜びましたね。当初は、『こんな時に会費なんて払えない』と商工会議所の会員が減少することを予想していたんですが、逆に会員になりたいと言ってくれる人が出てきたんです。ここまでの職員の頑張りには心から敬意を表します。『あって良かった、なくては困る会議所』に、また一歩近づくことができました」

「海」を生かしたまちづくり

増田は現在、片瀬海岸に住んでおり、来夏の片瀬西浜海水浴場で取得を目指す海の国際環境認証「ブルーフラッグ」についても、藤沢の新たな観光資源として注目している。

ブルーフラッグとは、デンマークに本部がある国際NGO FEE(国際環境教育基金)による世界で最も歴史ある国際認証制度である。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準があり、毎年審査を受けて更新する必要がある。基準を満たしたビーチ・マリーナ等はその証として、青いフラッグを掲げることができるのだ。

「今の若い世代は、海で遊ぶことがすくなくなくなっていましたね。海水浴やマリンスポーツも良いのですが、海の中ではなく、浜辺で遊ぶことをもっと増やしていきたい。幼稚園児や小学生が砂遊びをしたり、砂像を造ったりして、海の楽しさを知ることが大事だと思います。そのためには、大人が遊びを提供する、見せてあげることも大事ですね。せっかく長いビーチがあるのだから、観光協会とも連携して、ブルーフラッグ

ビーチとして何かやれたら良いですね」

全国トップの海水浴客数を誇る西浜での取得は、安全・安心できれいな海づくりの象徴事例として、国内のビーチへ大きな影響を与えるだろう。このビッグプロジェクトに対し、増田も積極的に応援していきたいと語る。

会議所がやらなくて誰がやる

増田は、藤沢商工会議所会頭として、ある覚悟を持っている。

2011年の東日本大震災。会議所のメンバーや市職員とともに釜石市に現状視察に行った時に釜石市商工会議所会頭から聞いた言葉がそのルーツだった。

「釜石の会頭さんは、ご家族全員が津波で流されたそうです。そんな状況のなか、『俺がやらなきゃ、市長の首を絞めてでもやらなきゃいけない』と思ったこと、それが釜石の商業・産業を復興させることだったそうです。商業・産業を復興させるのは市ではできない、商工会議所にしかできないこと。『会議所がやらなくて誰がやる!』そうおっしゃっていた釜石の会頭さんの覚悟を、自分が会頭としてこのコロナ禍に直面して、もう一度思い出したんです」

(了)





紙袋をカード入れに変身、桜貝付き お気に入り紙袋をアップサイクル

2020/9/13(日) 11:00~12:30 佐助カフェ

お気に入りの紙袋から、名刺・カード入れを作りました。第一回目に引き続き、会場は銭洗弁財天に向かう道にある佐助カフェ。

今回の参加者は3名でした。皆様とても手際がよくて、予定時間よりも早く終了しました。

素敵な名刺・カード入れが出来ました。

皆さまとても喜んでいらっしゃいました。素敵なお店で、美味しいコーヒーをいただきながら、楽しい時間となりました。

(文・加藤美幸)



流木フレームに飾る ビーチコーミングの聖地で海の宝物をGET

2020/9/26(土) 10:00~12:30 鎌倉材木座海岸

さくら貝の碑の前で、授業スタート、簡単な説明と流木工房 鎌倉島の原嶋孝夫先生を囲んでスタートの記念撮影を撮って早速出発! 写真撮影は特別参加~次回10/11「鎌倉海岸フォトコレクション物語」の有賀先生にお願いしました。滑川を渡って、材木座海岸に降りると早速、原嶋先生のビーチコーミングにかける熱い言葉が聞えてきます。皆さん、先生のお話しをお聞きながら、でも海辺をゆっくりと自由に散歩です。

材木座から和賀江島を見ながら、気が付けば、逗子マリーナへ、そして、マリーナの一角に導かれます。海辺の部屋で小坪ブレンドコーヒーを楽しみながら、特製流木フォトフレームにデコレーションする大人の工作教室が始まります。それぞれの、思いのこもった素晴らしい作品が完成しました。皆さんの作品を手にして、それぞれどんな思いで創ったかを語りながら、授業は終わりました。

(文・富山 渉)



一緒に作って遊ぼう 親子で初挑戦! ボディサーフィン

2020/9/27(日) 9:00~12:30 江ノ島湘南港ヨットハウス

朝9時、片瀬西浜、湘南海岸公園にて開始。

萩原先生と一緒に

- ・感覚の体操
- ・海辺の散歩
- ・気温と海水温度の関係性などのお話
- ・いよいよ製作スタート

板をやすり、デッサン、ペイント。親子で協力、お友達と協力、たまに海辺へ遊びに行く自由なスタイル。大人も子供も1人1枚「マイボード」を完成させました!

9月下旬ということもあり、今回海に入って実際にボードを使ってみたのは先生と大人2名でしたが、みんなで乗り方を見学。約3時間の「海岸での授業」を楽しみました。

(文・石原英子)



リモートでウクレレ弾いて歌って楽しもう 自宅でだれでもウクレレ体験

2020/10/11(日) 12:00~14:00 片瀬西浜海岸

2018年から毎年、江の島周辺のリゾートホテルで開催してきました「海辺近くでだれでもウクレレ体験」講座!

今年2020年はコロナ禍のためオンライン授業での開催となりました。お誕生日のお祝いの歌、スタンダードなハワイアン曲などを皆さんで自宅でお顔を拝見しながら画面の楽譜を共有してウクレレの音色に合わせて唄うことができました。

ご自宅でご家族なども参加され、いっしょに楽しくコミュニケーションを取って学ぶことができました。

来年には湘南の海辺近くでリゾートムードのミュージックのウクレレ演奏と歌で「癒しの文化」を学びませんか。

(文:とみ〜斉藤:斉藤富彦)



片瀬西浜・鶴沼海水浴場は、 ブルーフラッグ認証の取得を めざしています。



出典：藤沢市HP



江の島海水浴場協同組合理事長の森井裕幸です。片瀬西浜・鶴沼海水浴場は、首都圏から近く富士山や江の島が見える景観の良さもあって、年間100万人以上来場者が来る日本屈指の海水浴場です。このたび、海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得をめざすことにしました。認証を受けるためには、行政、企業、環境/観光団体、漁業関係者、マリンスポーツ関係者、ライフセーバー、市民など、多くの人の協力が必要です。地域が一体になってみんなで、海岸ゴミ対策、騒音対策、喫煙ルールの徹底、安全対策、バリアフリーの導入などに取り組んで、世界が認める「キレイで安心安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」をめざし、この素晴らしい湘南の海を次世代に残していきましょう！

ブルーフラッグとは



ブルーフラッグとは、デンマークに本部がある国際NGO FEE（国際環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際認証制度です。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準があり、毎年審査を受けて更新する必要があります。基準を満たしたビーチ・マリーナ等はフラッグを掲げることができます。ブルーフラッグは1998年にフランスで誕生し、現在世界45ヶ国、4,560ヶ所が取得しています。特にヨーロッパでの認知度は高く、ブルーフラッグを取得したビーチは「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れます。日本国内における認証ビーチは、鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」の4か所のみです。



この活動は一般財団法人セブンイレブン記念財団の助成を受けています。

一般財団法人
セブン・イレブン記念財団

PUBLISHER: 片山清宏
EDITOR IN CHIEF: 片山清宏 ART DIRECTOR: 大戸千尋
EDITOR STAFF: 片山久美 加藤美幸 富山 渉
石原英子 齊藤富彦
COVER PHOTO: AYANO NAKAGAWA

web <http://shonan-vision.org/>
f @shonanvision
✉ info@shonan-vision.org

SHONAN
VISION

Social Magazine

Vol.39
2020.11